

# みんなに伝わる配色を普及して、 ユニバーサルな社会を実現する 東洋インキ

事業活動を通じたCSRを積極的に推進する東洋インキは独自のカラーテクノロジー(色彩技術)を活かした色覚ユニバーサルデザインの取り組み「UDing」をスタートした。より多くの人に伝わるカラーデザインを普及し、社会に貢献する21世紀の生活文化創造企業をめざす。

## 色を共通の言葉に変える

近年の情報通信技術やカラー印刷技術の飛躍的な向上により、色はますます重要な情報伝達手段になりつつある。公共施設の案内板や路線図はさまざまな色を使って塗り分けられ、銀行のATMや携帯電話、コピー機などの操作画面もほとんどがカラーになった。一般的に、色は世界の共通言語だと言われているが、果たしてその言語は本当にすべての人に伝わっているのだろうか。

遺伝子のタイプの違いにより色の見え方が一般の人と異なる色覚障害を持つ人は、日本全体で約320万人いるといわれている。世界的に見れば、これは血液型がA型B型の人の数とほぼ同数で、極めてありふれた存在なのだ。

である。にもかかわらず、色覚障害を持つ人は社会的差別を受けることもあり、これまでに色に関する不自由を訴えることが少なかった。そのために、色覚障害に配慮したカラーデザインは社会に浸透してこなかったのだ。

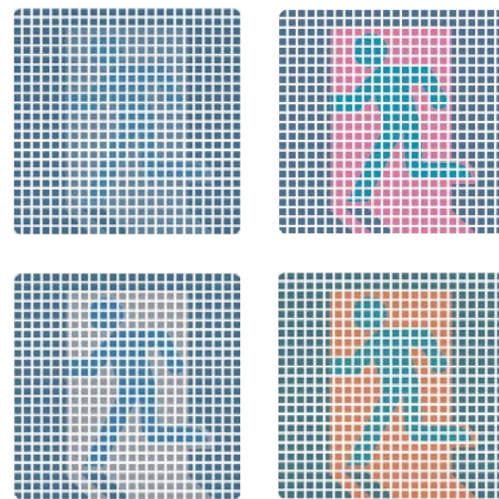
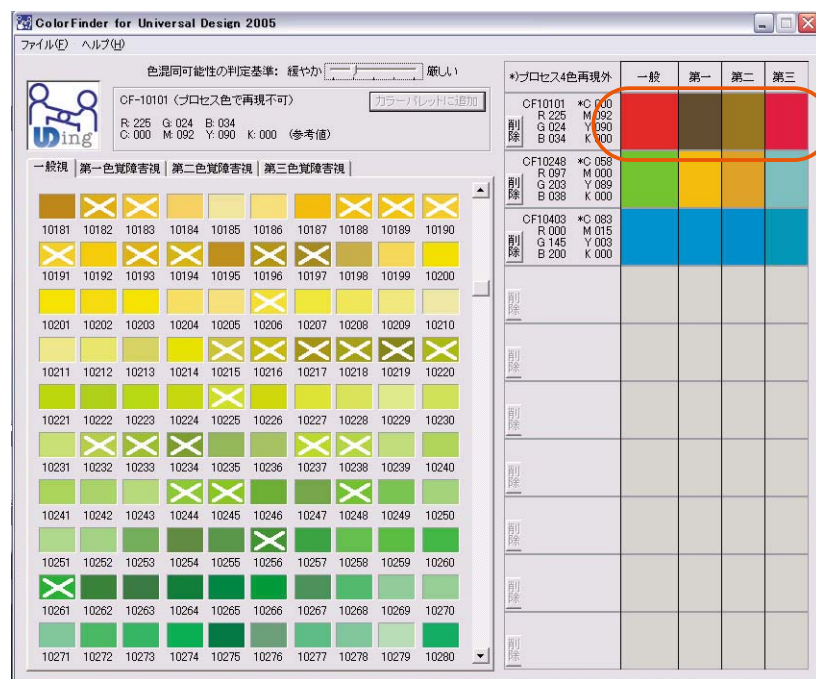
印刷インキ製造のリーディングカンパニーである東洋インキは、これまで培ってきた独自の色彩技術を活かし、色覚障害に対応したカラーデザインをサポートする技術を開発した。「色覚UD支援ツール」は、色覚障害を持つ人が判別しにくい色の組み合わせを自動的に抽出し、判別可能な色へと自動的に変換する。これまでも色の組み合わせをシミュレーションするソフトウェアはいくつかあったが、自動変換できるものはこれが世界でも初めてだ。

## カラーテクノロジーで 色覚UDを推進

2つのツールのうち「CFUD (Color Finder for Universal Design)」は、色覚障害に配慮した配色を行うことができるカラーパレット状のソフト。色見本帳「カラーファインダー」のライブラリーから選んだ任意の色が、色覚障害のタイプ別でどのように見えるかをシミュレートすると同時に、組み合わせることができない色をあらかじめ確認できる。また、特定の色を色彩値で指定すれば、カラーパレットに追加することも可能。色見本帳「カラーファインダー」や屋外マーキングフィルム「ダイナカル」と併用すれば、仕上がりの色を確認しながら配色することが可能。

「UDing(ユニバーサル)」は、すでに制作されたデザインが色覚障害の場合にどのように見えるかを確認するとともに、混同するおそれがある色を見やすい色へと自動変換する。ツールには変換した画像データを保存する機能が搭載されているので、デザインを変更するたびに画像を取り込むわずらわしさもない。

現在、この2つのソフトは、東洋インキのホームページで申し込んだ希望者に無料で提供されている。東洋インキは、1907年の創業以来、長年にわたり培った色彩技術を駆使して、高齢者や色覚障害を持つ人に配慮したカラーデザインを実現。誰もが快適に暮らせるユニバーサルな社会をめざす。



▲ 色覚障害のない人には見やすいカラーデザイン(右上)も、第1(左上)、第2(左下)、第3(右下)の色覚障害があると、まったく違った配色に見える

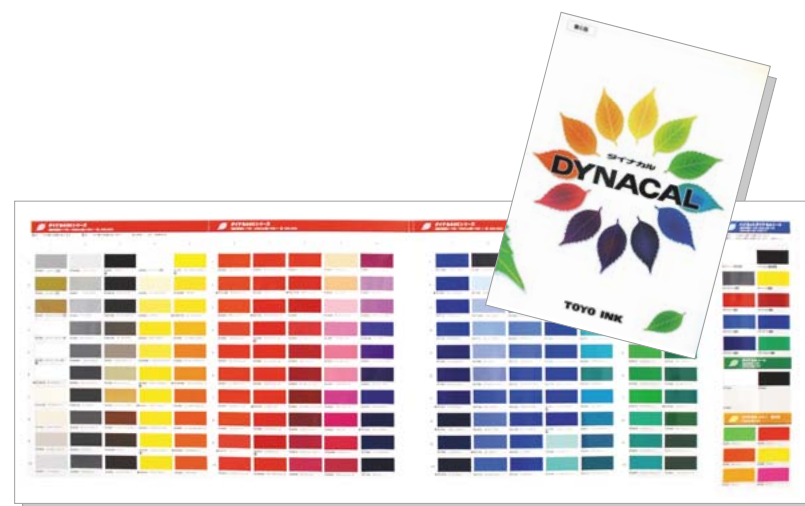
◀ 色見本帳「カラーファインダー」で選んだ色が、色覚障害の場合にどのように見えるかをシミュレート(右部)。組み合わせられない色は×で表示される

**TOYO INK**

東洋インキ製造株式会社

● 連絡先  
CNK本部マーケティング部  
〒104-8377 東京都中央区京橋2丁目3-13  
Tel: 03-3272-5719 Fax: 03-3272-0658  
E-mail: master@toyoink.co.jp

<http://www.toyoink.co.jp>



屋外サイン用マーキングフィルム「ダイナカル」



色見本帳「カラーファインダー」が手元があれば、実際の色を確認しながら作業できる

